



町開発総合センターに現れたこの巨大な壁画は、旅する壁画プロジェクト「ヘキカキカク」の長谷部美紅さん（東京都・会社員）と岡田杏里さん（埼玉県・東京芸術大学大学院生）の2人により手がけられ2月22日から約20日間かけて制作されました。2人はこれまで、グアテマラ、ネパール、富山県氷見市で、創造の面白さを伝えるために各地の住民と一緒に壁画を描く同プロジェクトを進めていました。昨年、長谷部さんが仕事で長島町を訪れ、本町の自然や人の良さに引かれたことが今回のプロジェクトの始まりとなりました。

縦約20メートル、横約10メートルのこの壁画のタイトルは「長島のはなし」。2人が本町を訪れ、住民に話しを聞いたり、本町の歴史を調べたりしたものに、豊かな海や大地、魚、みかん、じゃがいも、ヘゴや本町の郷土史に掲載されていた民話などを基にイメージしたもので、頂には笑顔で温かく迎えた町民を太陽の笑顔で表現しています。

色塗りには、SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）などを使って声をかけたところ、大人から子どもまで述べ100人の町民たちが協力し、完成しました。

岡田さんは「歴史を語り継ぐ人たちが減少しているが、そういった話を壁画に残し、関わった人たちが語り繋いでいってほしい。この壁画が住民に愛される風景の一部になってくれればうれしい」と話しました。